

『港湾行政マネジメントのガイドライン（仮称）』構成案

I 港湾行政マネジメントの確立に向けて

1 ガイドラインの位置づけ

本ガイドラインは、「港湾行政マネジメントに関する研究会」における成果の取りまとめ及び港湾行政マネジメントの実際の進め方を解説するものであることを記述。

2 なぜ港湾行政マネジメントが必要なのか

港湾行政を取り巻く環境、求められている要請などに対応するために港湾行政マネジメントが必要であることを記述。

3 どのような港湾行政の姿を目指しているのか

成果重視型の行政への転換、港湾行政への満足度の向上、効率的な行政の実現、開かれた行政の実現など目指している港湾行政の姿について記述。

4 港湾のマネジメントの特徴

港湾に参与している関係主体が多岐にわたることや、港湾から受ける効用が国民には認識しにくいこと、さらには、港湾は国際的な市場原理が作用することなど港湾のマネジメントの特徴や注意すべき点などについて記述。（提言の引用）

5 港湾行政マネジメントの枠組み

港湾行政マネジメントの基本コンセプト、ポートコミュニティ、多重ループなど港湾行政マネジメントの枠組みについて記述。（提言の引用）

6 港湾行政マネジメントの確立に向けて取り組むべき課題

行政の効率化や国民への説明責任の向上、ポートコミュニティで取り組む港湾行政マネジメントの確立といった今後も取り組むべき課題等を整理して記載。（提言の引用）

II 港湾行政マネジメントの進め方

港湾行政マネジメントの具体的な進め方について「年次実行プラン（仮称）」及び「年次成果レポート（仮称）」を中心に説明。

1 『年次実行プラン（仮称）』の作成及び公表

（1）港湾行政マネジメントの導入に向けた体制づくりと心構え

港湾行政マネジメントの導入に向けた体制作りや心構え、マネジメントやリーダーシップの必要性やその違いなどについて説明。

（2）事務所の使命及び目標の明確化

使命や目標とはどのようなものなのか、またその定義などについて説明し、

実際に事務所で使命や目標を立てる手順や方法、情報源などについて記述。

(3) 置かれている現状の分析及び課題の特定

事務所や管内港湾の現状をさまざまな角度から分析し、その要因を検討して課題を特定するまでの一連のプロセスについて説明。

(4) 課題の解決に向けて実施する方策の検討

事務所や管内港湾が抱える課題を解決するために、どのような施策や日々の業務改善を実施すべきかについて説明。

(5) 目指すべき姿の実現度を測定するための指標の設定

マネジメントにおける指標の必要性や、港湾行政マネジメントにおける指標の考え方、事務所に独自指標が必要な理由、中長期的な目標値を設定し単年度の目標値に落とし込むなど目標値の設定方法等について説明。

2 『年次成果レポート(仮称)』の作成及び公表

(1) 業績結果の分析と公表

マネジメント実施後に指標ごとの達成状況や動向を把握し、原因説明的な情報を付加して要因を分析する一連のプロセスについて説明。ここでは、自然災害や為替動向など避けられない外部要因やデータ限界等についても記述。

(2) 次年度のマネジメントを改善するための方策の検討

次年度に実施するマネジメントを改善するために、どのような施策や日々の業務改善を実施すべきかについて説明。

III よくある質問等(Q & A)

- Q.1 国民に分かりやすく説明するために、どのように公表するつもりですか。
- Q.2 調査や設計といった計画段階のように、単年度の目標値がはっきりしない場合は、どのように目標値を設定すれば良いのでしょうか。
- Q.3 所長でも悩むことがあるので、他事務所の様子が分かるような機会を設けてほしいのですが。
- Q.4 マネジメントの対象を直接的なユーザーと考えた場合、納税者である国民への理解を得るためにはどうすれば良いのでしょうか。
- Q.5 事務所の独自指標は、どうやって設定すれば良いのでしょうか。
- Q.6 戦略に基づき指標を決めて目標を設定した後で、当初の設定とは違うことが起きた場合にはどのように対応すれば良いのでしょうか。
- Q.7 独自指標は、アウトカムの指標を目指した方が良いのでしょうか。

⋮

参 考

「実行プラン/成果レポート」総括シート